

# 財政破産は動労千葉破壊策動の破産!

## 日刊 動労千葉

80.9.14 全国版 No. 65

国鉄千葉動力車労働組合  
千葉市要町二一八(動力車会館)  
(電話)二九三五〇六(公衆)四三三二七二〇七

### 第36回全国大会報告(792)

★★★★★★  
全国の動労組合員のみなさん!  
前回(全国版・No.64)に引き続き第三六回全国大会に現出された「本部」反動分子の破産の状況と本質を明らかにしてゆきたいと思えます。

#### 組織と財産の食いつブシ

前回明らかにしたあまりにも明白な財政破産の状況は多くの代議員の怒りを呼び起し、決算報告の承認は所定通り行われず大会最終日まで持ち越され、予算案についても「本部」反動分子が、七九年度決算での規約・規則無視の流用を居直り、再度画策したスト生活資金からの二億円の流用が当然にも拒否され、動労史上初の予算案の執行部提案が書き直しという事態に追い込まれてしまったのです。

決算・予算については、以上の他にも様々の問題点があり、まさに財政破産としか言いようのない状態であり、権力・当局からの攻撃としてあるスト損賠裁判の進行状況から組織財政の展望が組織の存亡をもゆるがす状況になっているなかで、このような財政運営をすることが、いかに無謀なことであるか言うまでもないことです。

昨年全国大会で、暴力と規約・規則無視の「本部」反動分子と相容れない戦闘的・良心的仲間が中央での共同執行体制を当然にも拒否し、片肺執行部となつてたかだか一年で、セクト的組織引きまわしの弊害は、多くの先輩が血と汗で築いてきた動労の組織と財産を、ここまで食いつぶしているのです。

#### 高まる組織不信

このような中で、組合員の組織不信が高まるのは当然のことですが、「本部」反動分子は、今日、動労をおおい尽している組織不信の状況を、「昨年大会以降現出された派閥対立によって生じた組織不信」であるとの総括を提起し、戦闘的・良心的代議員の怒りの削除要求(修正動議)を、グウの音も出ないまま受け入れざるを得なかったのです。

今日の動労における組織不信の根因が、千葉地本排除 ↓ 動労千葉破壊策動に現出された「本部」反動分子の暴力と暴力を背景とした傍若無人の規

★★★★★★

約・規則無視とセクト的組織の私物化そのものであり、それらが「本部」反動分子の体質と化していることへの怒りであることは、動労内外の全ての労働者・人民に知らない者はありません。それを百も承知で、「組織不信は派閥対立が原因である」とヌケヌケと出してくるところに「本部」反動分子のもうひとつの陰險な体質が現わされています。

#### 展望のない「千葉事務所」へ三千万円!

以上述べてきた財政破産の意味するものは、何よりも、「千葉対策の破産」であるという本質を、われわれはしっかりと見据えなければなりません。動労千葉に対する組織破壊策動の破産は、昨年全国大会へのスパイおよび私利私欲でつられた「七名」のかき集めや、以降一年間経ても「再建」できないまま当局に泣きついての「業務再開通告」のベテンに至るまで、暴力とデマ宣伝をもってする組織破壊策動の破産として、その都度、実態を暴露してきた通りですが、今大会における財政破産の露呈によって、さらに鮮明にかくしようにしたものとなっているのです。

そして今後も、全く展望のない「千葉事務所」に三千万円の予算を計上し、革マル代議員は「まだ不足だ」と発言しているのです。

「千葉事務所」が千葉におけるスパイ・裏切り分子への酒食のもてなしを「組織対策」という名の口実としつつ、実は、動労組合費を「水本」などのセクト運動へタレ流すためにかくれみのとならない保障がどこにあるのでしょうか。

「本部」反動分子のこの間の所業は、これらの危険性が単なる杞憂でないことを明白に示しています。

全国の組合員のみなさん!  
「本部」反動分子の動労私物化を許さないため、ともに決起しようではありませんか。

